2026 年 4 月 15 日

【ニュルブルクリンク耐久シリーズ 第３戦 ／ ニュルブルクリンク(ドイツ)】
最高峰クラスで ADVAN カラーの BMW M4 が総合優勝、フォード・マスタングも 3 位フィニッシュ！

4 月 11 日(土)に開催されたニュルブルクリンク耐久シリーズ(NLS)の第 3 戦で、最高峰の SP9 PRO クラスに伝統の ADVAN カラーをまとって参戦する BMW M Motorsport(参戦チーム名：Schubert Motorsport)の BMW M4 GT3 EVO が総合優勝を飾った。また、Haupt Racing Team(参戦チーム名：HRT Ford Racing)のフォード・マスタング GT3 が 3 位フィニッシュで、ヨコハマタイヤを装着して参戦した 2 台が揃って表彰台を獲得した。

第 3 戦は翌週に 24 時間レースの予選を兼ねる第 4 戦・第 5 戦を控え、さらに 5 月 16 日(土)～17 日(日)に開催される 24 時間レースの本番に向けて、重要な一戦となる。グランプリコースとノルドシュライフェ(北コース)をつなぐコースを走行出来る機会は限られるため、24 時間レースに向けてセットアップの煮詰めなど準備を整える貴重な場としても位置づけられる。

レースが行われた 4 月 11 日(土)のドイツ・ニュルブルクリンクは朝から青空に恵まれ、公式予選が始まる 30 分前の 8 時で気温は 7℃、路面はオールドライコンディション。予選は時間経過とともに気温が上昇する流れであり、早めにタイムアタックを行うべくコースオープンとともに多くのマシンがピットを後にした。

Schubert Motorsport の BMW(77 号車)はフィリップ・エング選手がステアリングを握ってコースイン、開始から 17 分で 7 分 54 秒 597 をマークした。その後、マルコ・ヴィットマン選手、ロビン・フラインス選手とマシンをリレーして 90 分の予選セッションを終了、トップタイムの 47 号車・メルセデス-AMG GT3 に対して 2.204 秒という僅差の 2 番手となった。

予選終了から 2 時間のインターバルをはさんでスタートを迎える 4 時間の決勝レース、空は引き続き晴れ間も見えており路面はドライコンディションが保たれている。マーシャルカーの先導で 24.358km のコースをフォーメーションラップ、穏やかな春の陽射しに包まれたアイフェルの杜は“Green Hell(緑の地獄)”という異名をとっていることを、忘れさせるほどに新緑が美しい。

そんな中でフロントローに陣取っている ADVAN カラーの BMW も、2 列縦隊を整えてホームストレートへ戻ってきた。じわじわとスタートラインへ隊列が近づいてレッドシグナルがグリーンへ変わったのを合図に、全車フルスロットルで 1 コーナーへ向かい 4 時間の過酷な戦いがスタート。スタートドライバーをつとめるのはヴィットマン選手、オープニングラップで 2 台の先行を許すも 2 番手を争う集団にテール・トゥ・ノーズで食らいついていく。

4 周目には前を行く Pro-Am クラスの 23 号車に仕掛けて並びかけたが、バックマーカーに行く手を塞がれるかたちになり前へ出ることは叶わず。この時のタイムロスに乗じて後方から迫ってきた 5 番手のポルシェが 6 周目に前へ出たが、チームは少し早めに 1 回目のピットインを行う戦略をとり 6 周目を終えた開始 50 分時点で、同じ SP9 PRO クラスでは 911 号車のポルシェと同時にピットイン。77 号車はドライバー交代を行わずに 2 スティント目へ突入した。

スタートから 1 時間、気温は 16℃で引き続き青空が広がる気持ちよい陽気のニュルブルクリンク。77 号車より 1 周遅くライバル勢も 1 回目のピットイン、この戦略の違いも功を奏して 8 周目を終えて 77 号車が 2 番の 911 号車に 21.765 秒の差をつけて堂々の総合トップに立った。

アイフェルの杜を快走する ADVAN カラーの BMW、9 周目にはここまでの決勝総合ファステストラップもたたき出しリードを拡げていく。そしてレースは折り返し、14 周を終えて 77 号車は 2 回目のピットインを行いエング選手がマシンを受け継いだ。レースが後半に入り、ニュルブルクリンクに棲むといわれる“魔物”が顔をのぞかせ、SP9 勢ではトラブルなどで戦線を離れていくライバルの姿も。一方でエング選手は危なげ無い走りで周回を重ね、スタートから 3 時間 16 分で 3 回目のピットイン。

最終スティントを担うのはフラインス選手、2 番手に対して構築したリードをしっかり守りきって最後は 21.759 秒の差をつけてウィニングチェッカーを受けることに成功した。

また、予選クラス 6 番手(総合 19 番手)から怒濤の追い上げを見せたのが、HRT Ford Racing のフォード・マスタング GT3(65 号車)。スタートを担当したクリストファー・ミース選手がクラス 4 番手にポジションをあげてフレデリック・ベルビッシュ選手につなぎ、2 時間経過時点でクラス 3 番手へと浮上。

さらにサードスティントを担当したデニス・オルセン選手は、先行車のピットインでクラス 2 番手へ浮上した後にトップの 77 号車との間にいた SP9 PRO-AM クラスの 23 号車へ果敢に迫る。77 号車が先にマークした決勝ファステストラップを更新する速さで、相手のルームミラーいっぱいに自車の姿を写しながらプレッシャーをかけていく。両者は 23 周を終えて同時にピットイン、65 号車が 23 号車の前に出てトップの 77 号車に 65 号車が続く“ヨコハマタイヤ勢によるワン・ツー・フォーメーション”が構築された。

最終スティントをドライブしたヴィンセント・コルブ選手は、背後から襲いかかってくる 911 号車のプレッシャーに耐えながらの周回となり、時に速度制限区間で軽く接触される場面もあったが全力で走り続ける。惜しくも 26 周目に入ったノルドシュライフェの入り口で先行を許したものの、その後もしっかり走りきって 3 位でフィニッシュしてこちらも表彰台を飾った。

■2026 年 ニュルブルクリンク耐久シリーズ 第 3 戦 決勝結果

クラス順位	総合順位	No.	ドライバー				チーム	周回数	トータルタイム
1	1	77	Marco Wittmann	Philipp Eng	Robin Frijns		Schubert Motorsport	28	4:08:08.316
2	2	911	Ayhancan Güven	Matt Campbell			Manthey	28	4:08:30.075
3	3	65	Dennis Olsen	Frédéric Vervisch	Christopher Mies	Vincent Kolb	HRT Ford Racing	28	4:08:37.021
4	4	47	Kamui Kobayashi	'Jesse Krohn'	Edoardo Liberati	David Pittard	KCMG	28	4:09:33.991
D.N.F.	-	7	Patricija Stalidzane	Christian Engelhart	Pavel Lefterov		Konrad Motorsport	16	2:22:50.274
D.S.Q.	-	44	Klaus Bachler	Benjamin Leuchter			Falken Motorsports	15	2:39:02.708